

土佐に常呂尋常小学校があった頃のこと
『土佐郷土史』からの抜粋・編集

注：明治35年7月1日に校舎の位置変更が行われ、東1線3号9番地
(現土佐50番地1の南)に柴田喜久哉の寄付により千800坪の校地を
得て、建坪75坪の校舎新築

大正5年10月27日に常呂小学校の位置変更を指定される

(常呂村市街予定地：大通り西2丁目中通り西2丁目)

土佐から現在地に位置変更の指令を受け、3千600坪の校地に
240坪の校舎を新築

大正6年6月から新校舎で授業開始

(略)常呂尋常小学校が市街地から土佐に移転後の明治35年から大正6年にいたる間の
ことについて、当時市街から通学していた三沢正雄、上杉マサヨ、古館イト、高橋アヤ子
の諸氏に聞いてみる。

「学校は東向きに建っていました。すぐ後ろには子ども腕では幾抱えもあるタモの大
木が10数本繁っていました。校地とはいえ一人では入っていけない寂しいところでした。
通学道路の両側には2メートルもあるヨモギや葎が生え続けていました。かすりの着物に
かすりの羽織で、冬は脚絆をはいて通学しました。女の子には桃割れや銀杏返しに結っ
てる人もいました。

井戸はあったが飲料不適というので、隣家の小原さんへ毎日もらい水に通うのが日課に
なっていました。

市街上層家庭の子は米の弁当でしたが、一般は麦飯、イナキビ、アワ飯またはでんぶん
団子、馬鈴薯のゆでたものなどさまざまでした。

遊びの種類は手まり、かんきり、竹割りなどが長く続いていました。

明治40年頃からは運動会も始まり、41年度からは修業年限が6年になって、在籍数も段
々増えてきました」

注：明治41年6月6日 運動場落成